京都

味ひとすじ むすび 乙羽

新京極の寿王・さんわ 221-2012

天気

	あさ	6時	9	12	15	18	21	24	あす
京都	14 5								15 4
宇治	14 3								15 2
舞鶴	12 4								14 3

週間天気

	27日(日)	28日(月)	29日(火)	30日(水)	1日(木)
京都	18 9	12 6	13 4	14 4	15 7
宇治	16 7	12 4	13 2	14 2	15 5

○のち　一時々　数字(上)最高気温 (下)最低気温　光読みは降水確率 白メキは50%以上 ○は正午の風向き 天印なしは無風　らくらく天気予報

こよみは下に掲載

アプリで隠れ名所紹介

府、「ポケGO」など活用へ

府は世界的に人気の「未来ボックス」（横浜市）が開発した位置情報システムを使用。商店街や留学生など普段は取り上げられることの少ない府内の隠れた観光情報を提供する事業に乗り出す。アプリを開発したナイアンティック日本法人を支援をする=IT企業

スマートフォン向けゲームアプリ「ポケモンGO」などを活用し、

知事とナイアンティック日本法人の村井純人社長が会談し、アプリを活用した観光振興で協力を進めていくことで合意していた。システム構築費用などに1100万円を計上し、府議会12月定例会に提案する。議決後、今年度中にシステムを完成させ、来春から始動させる。府は場所によっては登録データのポケモンGOへの提供も検討しており、アイテムを獲得できる「ポケストップ」が京都市以外にも増え、観光客増加につながる可能性もある。

府や市町村による観光イベントへの誘致も検討している。山田知事は「地域ならでは情報を書き込め、まったく新しい

情報提供

京都発祥 マドレー染復活

東山で29日まで 昭和の着物など共に展示

京都発祥の染色技法「マドレー染」をテーマにした展覧会「伝統工芸をデザインする」が29日まで、京都女子学園建学記念館（京都市東山区）で開かれている。海外にも輸出され昭和時代に人気を集めながら、後継者がなく1990年代に途絶えていたが、京都女子大の教員や学生らが当時の技術を再現し復活させた。制作したドレスをはじめ、昭和時代の着物、スカーフ、道具など約50点を紹介している。【宮川佐知子】

マドレー染を再現したドレスと昭和時代に作られた訪問着を前にする河村さん＝東山区で

染料を混ぜたのりを何色も重ね布の上に転写する染色技法。微妙に混じり合った色彩が独特の模様を生み出す。水に染料を浮かべて生地に写し取る「墨流し染」が基になり、京都で友禅業を営む日比野治三郎氏が改良、大正時代に考案した。婚礼着の明良さんにも受け継がれ、着物だけでなく風呂敷やスカーフなどの小物も販売し、米国にも輸出した。しかし後継者がなく、技術は途絶えていた。

明良さんの孫でカルチャースクールを経営する澤平さん（41）＝中京区＝は幼い時から祖父の工房を行き来していた。祖父が亡くなり、マドレー染が消えていくのが心残りだった。約3年前、染色工業を研究する京都女子大の青木美保子准教授（56）と知り合い、学生や他大学と連携した復活プロジェクトが始まった。

当時の文献や染色職人の協力を得ながら技法を学び、祖父の道具を使ってマドレー染のドレス3点を完成させた。約3年前、染色工業を研究する京都女子大の青木美保子准教授（56）と知り合い、学生や他大学と連携した復活プロジェクトが始まった。

澤平さんは今後も技術を学び、マドレー染を発展するためのサロンの開設や、協力企業を募りマドレー柄をあしらったスカーフの販売などを目指す。「先人が積み上げてきた技術、奥深さを改めて実感した。新しい物作りに生かしていきたい」と話している。

展覧会は午前10時～午後4時。入場無料。問い合わせは京都女子大（075・531・7030）。

主体部は横穴式石室

長岡京 井ノ内車塚古墳 被葬者、首長級か

長岡京市埋蔵文化財センターは24日、国史跡・乙訓古墳群の前方後円墳「井ノ内車塚古墳」（同市井ノ内向井芝）の発掘の結果、古墳の主体部分は横穴式石室だったと発表した。

今回判明した横穴式石室の遺体安置した「玄室」の東側壁を指す市民説文化財センター担当者＝長岡京市で

た。近隣の同じ6世紀前半の前方後円墳と同様の特徴を引き継ぐ石室で、担当者は「近隣一帯の首長墓を頂点とした階層の関係構造を解明する上で貴重」と強調している。

今回の発掘調査で、被埋葬者の遺体を安置する「玄室」の東壁と東側壁の各一部を確認した。古墳外部とをつなぐ通路「羨道」が、外から見て玄室の右側に設置されている「右片袖式」で、芝（京都市西京区）と井ノ内稲荷塚（長岡京市井ノ内小畑）の両古墳と同じだった。

被埋葬者は乙訓中部から一部南部周辺の古墳の最高権力者、首長クラスと推測されている。同埋文センター事務局の中島信夫次長は「車塚古墳は主体部が解明されず、埋葬方法も木棺直葬との見解もあった。今回で横穴式石室であることが分かった」と説明した。

一般向け現地説明会は26日午後1時から（小雨決行）。問い合わせは同センター（075・955・3622）。【木下創明】

14億2400万円を計上

府補正予算案 経済、福祉政策を柱に

府は24日、経済対策と福祉政策を柱とする14億2400万円の一般会計補正予算案など10議案を府議会12月定例会に提出すると発表した。緊急経済対策として、綾部市に北部産業創造センターを整備する事業に7億6200万円▽理化学研究所の一部が移転するけいはんなプラザ（精華町）の環境整備に3億4300万円―などを計上する。

福祉政策では、医療・介護施設を集積する地域づくりを進める「京都版CCRC」事業に3億円▽要保護児童の養育施設「ファミリーホーム」の京丹後市への開設に800万円―などを盛り込んだ。

また、天ケ瀬ダム（宇治市）にトンネル式の放流設備を設ける国土交通省の直轄事業では工事費が増大、府の負担額も31億円増えて115億円となり、完成時期も2021年度と3年遅れる。このことについての国交省からの意見照会に「やむを得ないものとして同意する」との山田啓二知事の意見を国交省に送付する。「計画変更は大変遺憾で、今後は増額や工期延長がないよう、厳正に管理増減を行うとともに、工期を厳守し、早期完成を図られたい」とも付言する。

12月定例会は12月1日開会。会期は16日までの16日間。代表質問は5、6両日。一般質問は7～9日。【野口由紀】

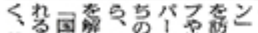
記者と学校交流

立命館大衣笠キャンパス

京都市北区で24日、毎日新聞大阪本社社会部の津久井達記者と写真部の久保玲記者が出前授業をした。文化祭（11月26日）の展示に向けた準備の一環。

津久井記者と久保記者は今年9～10月、1979年から続く毎日新聞の連載企画「世界子ども報道キャンペーン」の取材でヨルダンを訪れた。難民キャンプや首都アンマンのアパートで暮らす難民たちの写真を見せながら、苦しい暮らしぶりを解説。津久井記者は「国連機関から支給される生活費は十分でなく、難民の人たちは食費を切り詰めなくてはならない」と説明した。

文学部3年の織代郁也さん（22）は「現地で取材した生の声を直接聞ける貴重な機会になりました」と話した。【野口由紀】

「カツオ節」で料理おいしく

中京・老舗がPR